

ASEAN UNIVERSITY NETWORK (AUN)

AUNの設立経緯

目的: 学生と職員による各種共同事業を通じ相互理解を促進すること

- ①学生と教員の交流
- ②共同研究
- ③情報共有
- ④ASEAN研究の促進

- 1995年、ASEAN10か国の高等教育担当大臣により合意・署名され設立した。
- ASEAN諸国を代表する大学で構成。
- 日本、EU、中国、韓国は域外パートナーとして、技術・資金援助。

AUNメンバー大学

ASEAN10か国、30の大学によるネットワーク

AUN Member Universities



AUNのホームページ (<http://www.aunsec.org/index.php>) 2016年8月18日最終確認)より引用、
AUNの詳細については、同ホームページを参照のこと。

組織

AUN傘下

AUN/SEED-NET(工学分野) AGBEP(ビジネス・経済分野)

AUNIP(知的財産分野) AUNILO(図書館・情報ネットワーク分野)

AUN-HREN(人権教育分野) ACTS(単位互換システム)

- ①政策決定機関として理事会
- ②活動を実施するメンバー大学
- ③計画案策定・調整・モニタリングを担う事務局

理事会:各国政府により任命される10名の大学代表者。年に1回理事会が開催される。

事務局:バンコク、チュラロンコン大学内。

事務局長:理事会議長(タイ高等教育委員会長官)の推薦を受け、る次回により任命される。

AUN/SEED-Net

ASEAN工学系高等教育ネットワーク

日本政府の協力のもとASEANの工学分野での人材育成・研究能力の向上を図るために立ち上げられたネットワーク

- 1997年、アジア経済危機を踏まえ、日 ASEAN非公式首脳会議で日本政府が打ち出した「21世紀に向けた日ASEAN協力」

→高等教育分野での専門的な人材の育成支援を提唱

- 1999年、ASEAN+3会議で「工学系高等教育による人材育成」等への支援を提唱
- 2001年、AUNのサブネットワークとして設立された。工学分野の大学間ネットワーク。

参加機関



AUN/SEED-Net「日本のブックレット」

(<http://www.seed-net.org/wp-content/uploads/2016/01/Brochure-2-%E0%B8%AA%E0%B8%B5%E0%B9%80%E0%B8%82%E0%B8%B5%E0%B8%A2%E0%B8%A7.pdf>) 2016年8月18日最終確認)

奨学金プログラム

AUN/SEED-Net「日本のブックレット」から

》メンバー大学教員対象の奨学金プログラム

大学院（修士・博士）奨学金プログラムは、メンバー大学の若手教員または教員になることを志望している学生が、学位取得のために他国の大学院正規課程にて学ぶことを支援します。これにより研究・教育能力を高め、さらには人的ネットワークの構築を経て、アジア地域における科学技術分野の「人材育成プラットフォーム」の基盤になることをめざしています。

1 修士プログラム

日本の支援大学教員の共同指導の下、東南アジア地域のホスト大学における正規修士課程にて学ぶプログラムです。

2 サンドイッチ博士プログラム

日本の支援大学教員の共同指導の下、東南アジア地域のホスト大学における正規博士課程にて学ぶプログラム。3年間の修学期間のうち、最長8か月訪日し、日本の共同指導教員の下で研究活動を行うことができます。

3 大学院一貫プログラム

修士課程と博士課程を統合し、学士号保持者が4年間で博士号を取得するプログラム。サンドイッチ博士プログラムと同様に、学生は日本の支援大学教員の共同指導の下、東南アジア地域のホスト大学にて学びます。4年間の修学期間中、1～2回の本邦での短期研究活動を行うことができます。

4 本邦博士プログラム

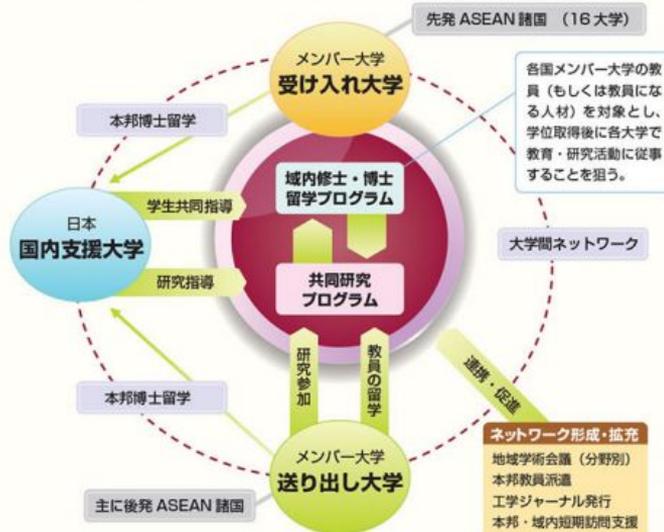
日本の支援大学の正規博士課程にて学ぶプログラムです。

5 シンガポール博士プログラム

学士号保持者を対象にシンガポールのメンバー大学の正規博士課程にて学ぶプログラムです。

プロジェクトの基本的枠組み

「留学」+「共同研究」+「ネットワーク形成」



共同研究プログラム

AUN/SEED-Net「日本のブックレット」から

》メンバー大学教員による共同研究プログラム

SEED-Net はメンバー大学の教員が、日本の大学や他のメンバー大学の教員と共同研究を行い、研究成果を通じてアジア地域の共通課題解決や産業界の技術発展に貢献することを支援しています。

1 産学連携共同研究

日本の支援大学教員の参画の下、メンバー大学の教員が産業界と共同研究を行うことを支援するプログラム。高度技術の革新と応用により産業の高度化への貢献を狙っています。プロジェクトで支援される研究経費とは別に、相手の企業からも支援を得る事が応募要件となっています。

2 地域共通課題共同研究

日本の支援大学教員と他国のメンバー大学教員の参画の下、メンバー大学の教員が地域に共通する課題（自然災害、環境問題、エネルギー等）に係る共同研究を行うことを支援します。研究成果を社会に還元するため、政府の行政機関や研究機関の参画も推奨しています。

3 師弟関係強化共同研究

本邦博士課程留学プログラムやサンドイッチ博士留学プログラムを通じて、日本の支援大学教員の指導により博士号を取得し、東南アジア地域の自身の大学に戻って教員になっている修了生を対象に、恩師である本邦大学教員と共に研究活動を行うことを支援するプログラムです。



AUN/SEED-Netが果たした役割

参画によって域内から留学生が流入化することで、教育活動の国際化が促進され、域内他国との共同研究を通じて研究活動の国際化が進んだ。

SEED-Netが改革のスピードを加速させた。

参考文献

黒田一雄 編著(2013)「アジアの高等教育ガバナンス」アジア地域藤堂講座 専門研究シリーズ第3巻、勁草書房、p3~21、p29~46、p142~153、p200~225